

吸実性カメムシ類について

1 主な種類及び形態

(1) ミナミアオカメムシ



成虫の体長15mm程で、腹部背面（翅の下の腹板）が緑色。

(2) アオクサカメムシ



成虫の体長は12～16mmで細長く、やや細長い6角形状で扁平で基本型は全体が緑色でありあまり光沢がない。

2 生態

多くの吸実性カメムシ類は、寄主植物を変えながら年数世代を繰り返す。ダイズを加害する吸実性カメムシ類は、マメ科雑草を主な寄主とするものが多いが、ナス科やイネ科雑草などに一時的に寄生する種もある。越冬は落葉や灌木の中で行うものが多く、春にマメ科雑草(カラスノエンドウなど)の花が咲く頃から活動を開始する。

ミナミアオカメムシは、セイヨウカラシナ、コムギ、マメ科・イネ科雑草、水稻（特に早生水稻）を経て、稲刈り後にダイズへ飛来すると考えられる。

3 被害

子実の被害は発育中の莢の中に口針を刺して吸汁することが原因であり、生育初期であると子実はほとんど肥大しない。肥大中期以降に加害を受けると子実が変形や変色するため、商品性は著しく低下する。



ダイズのミナミアオカメムシ（幼虫）による加害状況



ダイズにおけるミナミアオカメムシの吸汁痕